



■ 理念：地域に密着した医療を提供し、安心して暮らせるまちづくりに貢献します。



高精度なCT装置を導入し、被ばく量も低下しました！
今後も安全・安心な医療を提供するため、さらなる医療の質の向上に努めます。

■ 目次

- * 公立河北中央病院 骨粗鬆症予防チーム 活動紹介 (P2～P3)
- * 80列のCT装置を導入しました (P4)
- * 暮らしを豊かに～福祉用具を活用して生活環境を整えよう～ (P5)
- * TOPICS (P6～P7)
- * 連携医療機関のご紹介 (裏表紙)

公立河北中央病院 骨粗鬆症予防チーム 活動紹介

骨粗鬆症

骨粗鬆症とは、骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気です。
では、なぜ骨が弱くなるのでしょうか。

骨は4か月から6か月のサイクルで骨吸収(壊す)、骨生成(造る)を繰り返し、強さと柔軟性を保っています。この骨の新陳代謝(骨代謝)のバランスが崩れることによって骨粗鬆症が引き起こされます。

当院では、骨粗鬆症による骨折が起きてしまう前に予防できないだろうか、との思いで2015年に理学療法士を中心に多職種で骨粗鬆症予防チームを発足し、それぞれの職種の高い専門性をもとに目的と情報を共有し、活動しています。

骨粗鬆症予防チームの理念と目標

理念

骨の脆弱性を有する患者さんに対し、骨折が起きないようにする

目標

骨折予防により寝たきり、要介護状態を予防し、健康長寿社会の実現を目指す

チームメンバー

整形外科医師・薬剤師・看護師・診療放射線技師・管理栄養士・理学療法士の計9名で、そのうち5名が骨粗鬆症の専門医・**骨粗鬆症リエゾンマネージャー**(※)の資格を取得しています。来年度に向けてさらに1名が資格取得を目指して勉強中です。

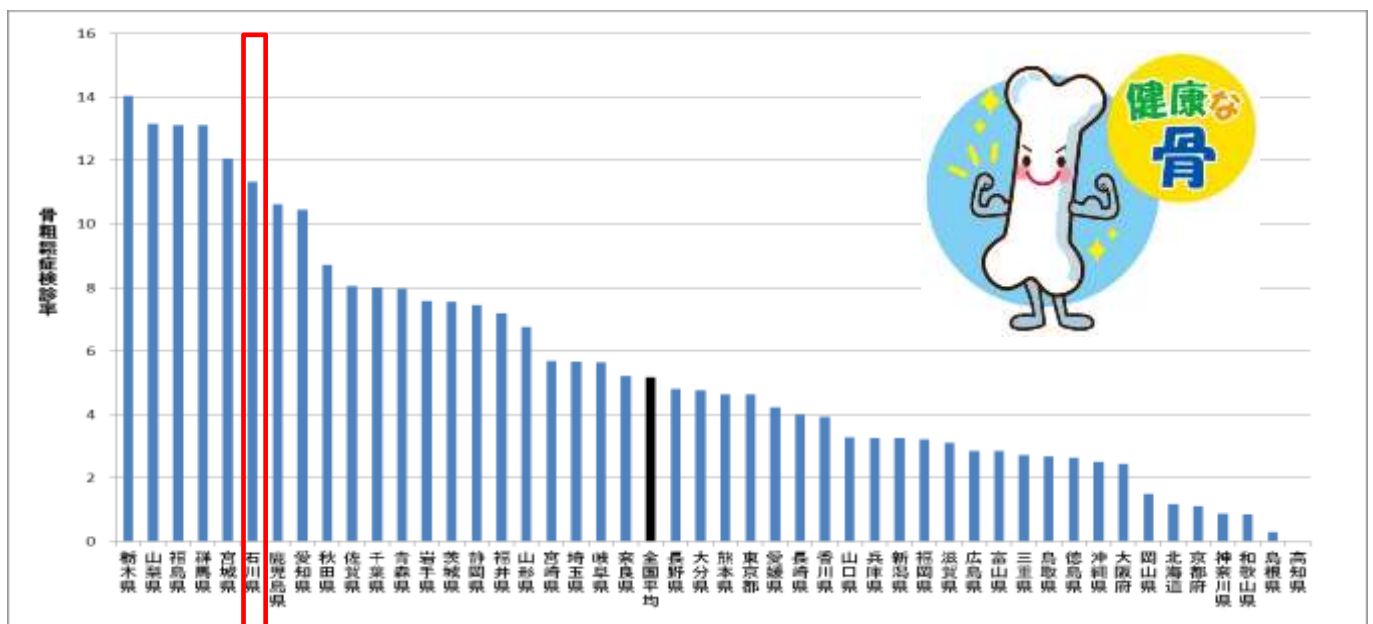
※骨粗鬆症リエゾンマネージャーとは！

骨粗鬆症リエゾンサービス(Osteoporosis Liaison Service, OLS)の役割を担う骨粗鬆症に関する知識を取得した専門スタッフです。

リエゾンとは、「連絡係」と訳され、診療におけるコーディネーターの役割を意味します。

最初の骨折への対応やリスク評価はもちろん、新たな骨折の防止のため、さまざまな分野の医療スタッフが連携を取りながら適切な治療や予防を行います。

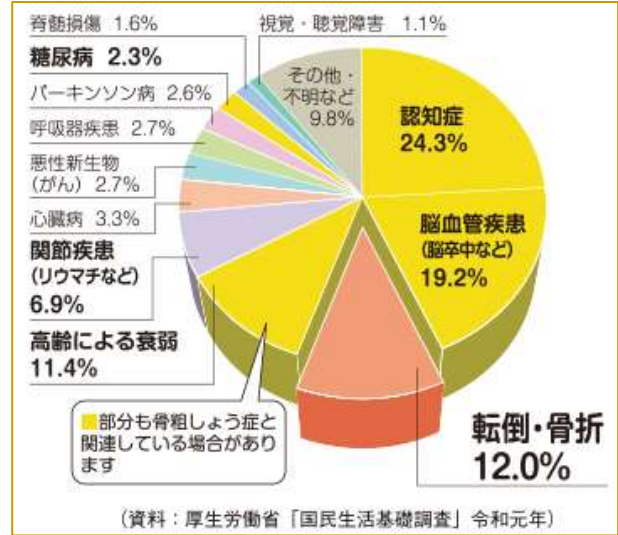
骨粗鬆症の検診受診率 1位は栃木県 石川県は6位



骨粗鬆症財団の調査結果（2018年）の骨粗鬆症の検診受診率をみると、石川県は全国平均よりも高く6位という結果でした。最も高い県は栃木県で14.0%、最も低い鳥取県では0.3%と47倍もの開きがあり、相関解析の結果、検診率が低い地域ほど大腿骨骨折を起こしやすく、介護が必要になる傾向があると示されています。

また、厚生労働省の調査（2019年）によると転倒・骨折は、要介護となる原因の12.0%を占め、認知症、脳卒中に次いで3位となっています。

骨粗鬆症による骨折や要介護者を減らすためには骨粗鬆症の検診に力を入れることが有効だと考えられます。



骨粗鬆症の検査

いろいろな検査方法がありますが、「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年度版」では、DXA法（デキサ）法での検査を推奨しています。

当院ではDXA法での専用の装置を使用し、腰椎と大腿頸部（股関節）の2か所を測定します。

検査時間は10分程度です。



骨密度検査法	超音波法	MD法	DXA法
診断・評価	使用できず	可	良



骨密度検査を受けましょう！

骨粗鬆症は、初期や予備軍の段階では、ほぼ無症状で、症状が出てきたときにはかなり進行しています。ご自身の骨密度を確認し、骨折予防につなげていくには、まずは年に1回の骨密度検査をおすすめします。

忙しい日々の中で受診の時間を作るのは大変だと思いますが、骨折の発生や骨粗鬆症の進行を防ぐため、精密な骨密度検査（DXA）を受けましょう！

おすすめは「お誕生月の骨密度検査」です。

骨密度の増加（骨が丈夫になると骨密度が上がります）を確認できれば、それが一番の誕生日プレゼントになったと喜ぶ患者さんが大勢いらっしゃいます。一人でも多くの患者さんに喜んでいただけるよう骨粗鬆症予防チーム一丸となってサポートします。ぜひ、当院整形外科スタッフや、リハビリテーションスタッフ、外来看護師等にお気軽にご相談ください。



骨粗鬆症予防チームは、出前講座も行ってまいりますので、お気軽にお声かけください。地域の皆様の骨を守るために頑張ります！



80 列の C T 装置を導入しました

新装置は最新の画像再構成技術が搭載されており、従来の装置に比べ、広範囲を高精細に撮影ができ、低い線量で高画質な画像を提供することができます。

患者さんにとっては、被ばく線量が大幅に低減し、息止め等の負担が軽くなりました。また、ガントリ（患者様が入って撮影するところ）の開口径は 10 cmほど広くなり、閉塞感が低減され、撮影時には、ゆとりをもって手を挙げていただけます。



「Aquilion serve」(キャノンメディカルシステムズ株式会社製)

超音波装置を導入しました



「Aplio a / Verifia」(キャノンメディカルシステムズ株式会社製)

今回導入した超音波装置は、画像が格段にきれいになり、肝硬度測定ができるようになりました。肝硬度測定は肝臓における組織の硬さを評価する検査です。慢性肝炎や進行した脂肪肝では肝組織が徐々に硬くなり線維化します。線維化がさらに進行すると肝硬変になります。これまで、肝臓の硬さを調べる検査は肝臓に直接針を刺して組織を採取して調べる肝生検が行われてきましたが、当院ではシェアウェーブと呼ばれる手法を用いて患者様に負担なく肝硬度測定を行えるようになりました。

くらしを豊かに ～ 福祉用具の活用して生活環境を整えよう ～

皆さんは「福祉用具」と聞いて思い浮かぶものはありますか？

福祉用具とは、身体機能の低下した高齢者や、障害をもった方の日常生活や社会参加を送る上で必要な用具及び機能訓練のための用具並びに補装具とされています。（福祉用具法第2条（※））

つまり、その方の生活をサポートする道具や、練習道具のことを指します。対象となる方の能力を補助するだけではなく、介助する側の負担を軽減するための用具もありますが、一般には余りなじみがなく、必要な状態になったとしてもその存在を知らなかったり、知っていても周囲を気にしてためらってしまったりという場面によく出会います。

※「福祉用具法」とは、平成5年10月に施行された「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」の略称です。高齢者や障害者が住み慣れた地域や家庭で自立し、積極的に社会参加ができるよう、1990年（平成2年）「高齢者保健福祉10ヵ年戦略（ゴールドプラン）」がスタートし、保健福祉サービスの充実が図られました。

身近な福祉用具

杖をはじめ、車いすや電動ベッド、手すり、スロープなど意外と身近に福祉用具はあります。また、最近では福祉用具も進歩しており、介護用ロボットといった分野でも開発が進んでいます。そのため、数多くの福祉用具が存在しています。

例えば…入浴を支える福祉用具

入浴用の福祉用具だけでも種類が豊富です。

福祉用具を活用し、浴室の不安を解消して、「入浴」を楽しみましょう！



- ・シャワーチェア…立ち座りや姿勢の保持をサポート
- ・洗い場用手すり…立ち上がりや移動をサポート
- ・浴槽用手すり…浴槽からのまたぎをサポート
- ・バスボード…浴槽への出入りをサポート
- ・浴槽内いす…浴槽が深い時の段差解消
- ・滑り止めマット…足やお尻のすべり防止 など

当院での取り組み

当院ではリハビリテーション科の職員を中心に、対象者に合わせた福祉用具の選定や作成、試用、使用練習、ご家族への介助指導を行っております。福祉用具の選定については、対象者の力だけでなく、使用する環境や用具の特徴を理解した上で選定する必要があります。そのため、必要に応じてご自宅を訪問させていただく場合もあります。また、条件によっては保険適応となる物や、レンタル品となる物、オーダーで作製した方がよい物など様々な方法がございます。入院中や外来通院でわからない事がございましたら、お気軽にご相談ください。

動作が楽になる

事故を防止

介助者の
負担を軽減

TOPICS



制服をリニューアル！

5年ぶりにスタッフの制服をリニューアルしました。職種ごとにカラーが分かれており、動きやすさも重視しながら、スタイリッシュさを追求しました。

清潔感のある新しい装いで気持ちも新たに、質の高い医療の提供ができますよう一層努めてまいります。



第39回看護研究会を開催！

1月19日（木）、当院で第39回看護研究発表会を開催し、県立看護大学の中道淳子先生と額奈々先生にご指導いただき、当院看護部が研究の成果を発表しました。

外来部門では、「病棟看護師が内視鏡治療の関節解除の際に覚えた抵抗感と今後の教育・支援内容の検討」と題し、射場瞳看護師が発表しました。

また、病棟部門では、幸正由里子主任看護師が「がん高齢患者へのレスキュー・ドーズ使用に関する看護師の意識調査」について発表しました。



「第21回河北中央病院医療連携の会」開催

1月11日（金）、当院を会場に第21回河北中央医療連携の会をハイブリット形式で開催しました。特別講演では、独立行政法人国立病院機構東京医療センター総合内科医長で、日本ユマニチュード学会代表理事の本田美和子先生に『優しさを伝えるケア技術 ユマニチュード®』をテーマに、ユマニチュードについて非常に詳しく教えていただきました。

また、当院の認知症看護認定看護師の高橋桐代主任看護師が「当院における認知症ケア」について、医療サービス室の北富美子主任看護師が「当院の連携実績」についてご報告させていただきました。



感染管理の認定看護師が誕生しました！

当院の灰屋こずえ看護師が
「感染管理認定看護師資格」を取得しました。

感染管理認定看護師は、患者さんだけでなく、そのご家族や職員など病院に関わるすべての方を感染症から守ることが重要な役割となります。また、日々の感染対策の評価や実践をすることで医療サービスの向上を目指していく役割を持っています。

認定看護師資格の取得で得た知識と経験を元に看護ケアの実践に取り組んでまいります。地域の皆さんのお役にたてますよう頑張ります！（灰屋）



3年ぶりに出前講座を再開！

11月20日（日）、庄町振興館で、庄区福祉文化部主催の出前講座を開催しました。庄区民約20名がご参加くださいました。

当院の野田恵美主任看護師は、「胃・大腸カメラの役割や検査方法」について講演し、がんの早期発見・早期治療の大切さを伝えました。

また、灰屋看護師は、「感染症から身を守るための家庭内のできる感染予防策」について講演し、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行が懸念される中でも、各自が出来る感染対策を積極的に行いながら、ご家族でお元気に過ごしていただきたいと話しました。

11月25日（金）、大坪会館で、別所シニアクラブ主催の出前講座を開催しました。当院の下俣人理学療法士と野崎陸斗理学療法士が、膝痛や腰痛を予防する「足腰元気アップ体操」を紹介しました。会場ではマスクをしながらの体操となりましたが、約30名の参加者は、休憩をとりながらゆっくりと体操を楽しみました。

12月13日（火）、井上の荘集會場で、あじさい会とみどりの会主催の出前講座を開催しました。約30名の皆さんがご参加くださいました。当院の齋藤速理理学療法士が「誤嚥性肺炎予防と介護予防体操」を紹介し、介護予防には「お口の健康も大切にしてほしい」と説明しました。



3年ぶりの「津幡町健康まつり」に参加！！

10月16日（日）に津幡町福祉センターで開催された「津幡町健康まつり」に当院も参加しました。健康チェックコーナーの血糖値測定を担当し、大木看護師と川畑看護師が約90名の測定を実施しました。



＊ご寄附ありがとうございます＊

- ・津幡地区民生児童委員様
- ・津幡地区女性会様

感染防止対策に活用させていただきます。



連携医療機関のご紹介



SUPPORT FOR YOUR HEALTHCARE

あがた内科クリニック

津幡町字御門い 14 番地 3 TEL076-254-6665

診療科: 内科・循環器内科・呼吸器内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	—	○	○	○	—
12:30~14:00	在宅診療	在宅診療	—	在宅診療	在宅診療	※	—
14:00~18:00	○	○	—	○	○	—	—

※土曜日は、9:00~13:30 まで

● <https://agata-naika.com>

令和2年5月に津幡町御門の地に「あがた内科クリニック」を開院し、はや今年で3年目を迎えております。

この間、医師会の多くの先生方、河北中央病院などのご協力ご指導を賜りましたこと、さらにクリニックのスタッフたちの暖かい協力に感謝申し上げます。

“健康長寿”が謳われる高齢化社会では、生活習慣病の罹患率が高く、開業後一貫してそういった患者様を中心に診療を行なわせていただき、さらには在宅診療/訪問診療により来院できない方々にも医療が行き届くように、「Support for your Healthcare」を目標に、多くの患者様の健康増進、健康管理にお役に立ちたいと願っております。



院内はバリアフリー設計です。駐車場も広く、ご利用いただきやすい環境を整えております。



待合室では落ち着いてゆったりとお過ごしいただけます。

宇野気医院

かほく市宇野気チ 33-16 TEL076-283-0103

診療科: 小児科、内科、皮膚科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○	—
15:30~18:00	○	○	○	○	○	—	—

● <https://www.unokeiin.jp>



当院は先代が1950年かほく市に開院、河北中央病院とともに、地域医療に携わって参りました。「人と人とのつながりを大切に」をモットーとしております。院長は小児科専門医ですが、芽衣子医師とともに各病院や診療所と連携しながら各種相談や診療にあたっております。赤ちゃんだった患者さんが成長されてお父さんお母さんになり、赤ちゃんを抱っこして診察にいらっしゃるときはしみじみ幸せを感じます。

現在、新型コロナウイルス感染防止のため、待合室での感染防止には特に気をつけています。待合室や廊下を床から天井までビニールで仕切ったり、ゾーニングなどスタッフ全員協力して運営しています。患者さんに自家用車内で待って頂いたり、待ち時間が長くなったりご迷惑をおかけしております。早く流行が収束し、元のように賑やかな待合室になるようお祈りしております。

